

# 単位制訓練(モジュール訓練)

——その理論と方法——

## 序

単位制訓練（モジュール訓練）は、雇用可能な技能を単位として、地域企業や訓練生のニーズに的確に対応できる訓練システムである。

昭和53年4月に、職業転換課程の能力再開発訓練に導入されて以来、中高年対策として、公共職業訓練施設に着実に普及し、その運用についても、各校がそれぞれの工夫をこらし、いわゆる訓練システムとして成果をあげつつある。

システムを構成する基本概念はMES（Modules of Employable Skill－雇用可能な技能の単位）である。MESは、企業のニーズや訓練生の能力に合わせて、訓練単位であるMUを組み合わせることによって構成され、雇用可能な技能の習得に結びつくものである。

昨年10月、職業能力開発促進法が施行され、社会のニーズに応じた弾力的な訓練の実施が期待されているが、これに応える一つの手段としても、単位制訓練の一層の充実と幅広い活用とが図られるべきであろう。

本書は、単位制訓練の理論と、その実施方法について述べたものである。実施成果を所所にとり入れて、理論と実際を一体化して理解できるように構成されている。

本書が、単位制訓練方式の一層の発展と普及に役立つことを願ってやまない。

最後に、本書をまとめるに当たって、アンケートにご回答を頂いた訓練校の各位に対し、厚く御礼を申しあげる。

昭和61年5月

職業訓練研究センター  
所長 多賀谷 敏夫